

仙台藩の川内武家屋敷

東北大学川内北地区の調査成果から

東北大学埋蔵文化財調査室

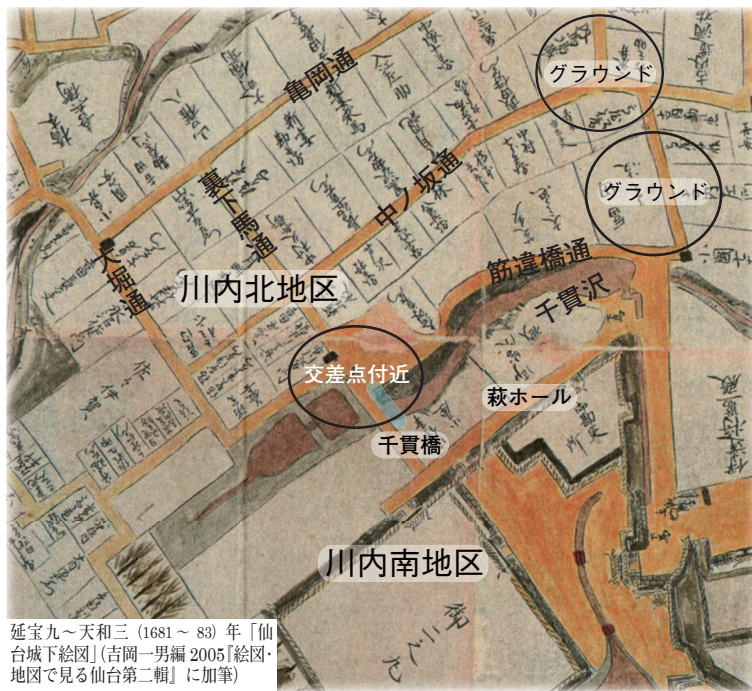
みなさんが大学生活を送っている川内北地区は、遺跡の上にあることをご存じでしたか？新しい建物を建てる時、水道・ガス管などを改修する時、地面を掘る工事をする前には、発掘調査を行い、遺跡の内容を記録します。その後に整理作業を経て、報告書を刊行することにより、発掘調査は終了となります。

本学の川内北地区は、仙台城二の丸の北側に作られた武家屋敷の跡地に位置します。この場所は、二の丸に近いので、仙台藩の重臣も多数居住していました。川内北地区には、江戸時代約270年間の長い歴史が詰まっています。

これまでに、川内北地区内では19地点におよぶ調査が行われています。その調査の結果、教科書や歴史書には載っていない、武家屋敷における日常生活の様子が見えてきました。ここでは、その一部をご紹介します。



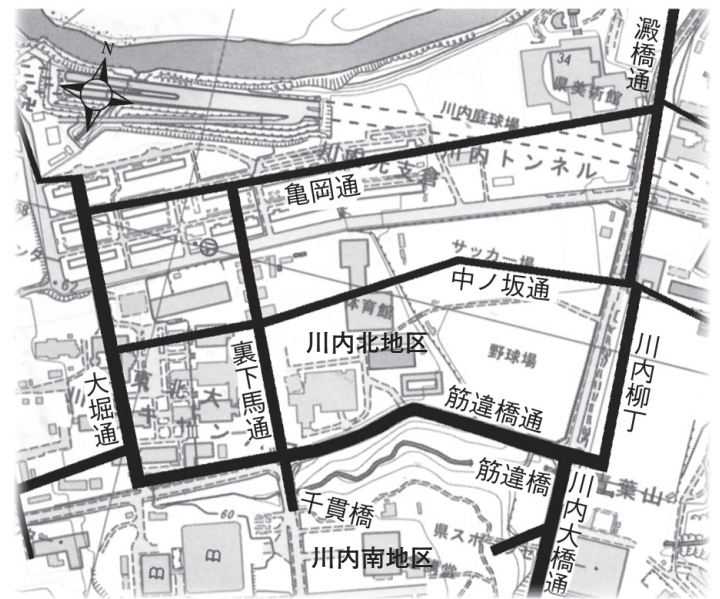
発掘調査の様子



延宝九～天和三（1681～83）年「仙台城下絵図」（吉岡一男編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』に加筆）

江戸時代の絵図

川内地区周辺には、江戸時代の絵図が多数残されています。現代の地形図からそれらの絵図を用いて時間をさかのぼっていくと、現代と絵図の場所の比較ができます。上図では、住んでいた人々の名前も記されています。



江戸時代の道路

筋違橋通（すじわいばしとおり）は、現在の道路とほぼ同じ位置にあります。大堀通（おおほりとおり）は、発掘調査によりおよその位置を復元できるようになりました。亀岡通（かめおかとおり）・中ノ坂通（なかのさかとおり）の位置はまだわかっていません。川内北キャンパスに屋敷を持つ藩士は、これらの道路を通して、二の丸に登城していました。



明治三十三（1900）年「最近實測仙臺市街全圖」（吉岡一男編 2005『絵図・地図で見る仙台第二輯』に加筆）

江戸時代以降の川内

川内地区には、明治時代以降に陸軍第二師団関連の諸施設が建てられ、第二次大戦後は、米軍が「キャンプ・センダイ」として駐留しました。左図には、第二師団の建物と名称が記載されています。昭和33（1958）年から、東北大学が敷地として利用しています。



千貫橋

千貫沢に架かる千貫橋の石垣には、後世の補修・改修が見られますが、現在もその姿を留めています。

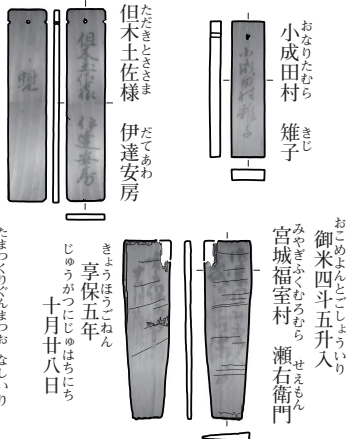
東北大学埋蔵文化財調査室ウェブサイトはこちら → <https://web.tohoku.ac.jp/maibun/>
各調査地点の詳しい成果は、『東北大学埋蔵文化財調査年報』、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』にまとめています。本学附属図書館で閲覧できます。
東北大学機関リポジトリからダウンロードできます。 <https://tohoku.repo.nii.ac.jp/>
全国文化財総覧 <https://sitereports.nabunken.go.jp/ja> からダウンロードできます。

ゴミを捨てた穴、井戸、池跡などが発見されています。ゴミ穴からは、木材・陶磁器と一緒に、捨てられた犬の骨が出土しています(写真上)。井戸の一つは、はしがが掛けられたままの状態で見られました(写真下)。



第7地点 現：マルチメディア教育研究棟

ゴミ穴からは、「享保」の年号が記載された荷札木簡がたくさん出土しました。年貢米に付けられた木簡や、蛭などの特産物の名が書いてあります。宮城福室村瀬右衛門は年貢を納めた農民の名前、但木土佐、伊達安房は仙台藩の重臣の名前です。



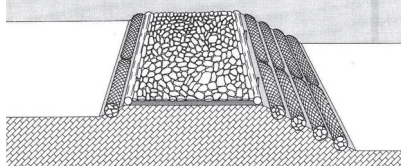
■ 仙台市による調査地点
■ 東北大学による調査地点



(二の丸) 第12地点 現：保健管理センター



堰の復元図



江戸時代の堀跡の底から、堰(せき)が発見されました。石敷の東西には竹製の蛇籠が置かれています。この堰で、堀に流れる流量を調節していました。



薬瓶



認識票



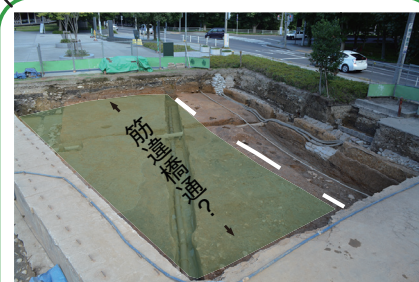
軍隊食器

明治時代に埋め戻された土からは、陸軍第二師団時代の遺物が多数出土しました。

第13地点 現：キッチンテラスクルール



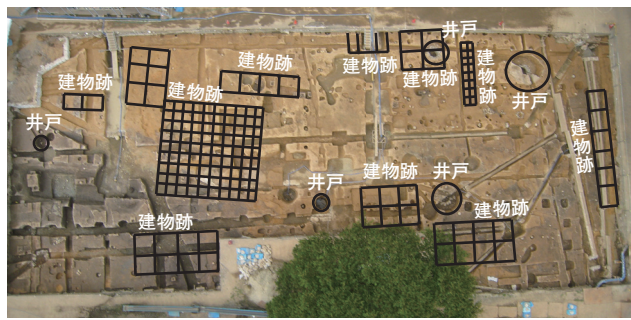
江戸時代の絵図に記載された沢の痕跡を発見。筋違橋通の推定位置がわかりました。その北側には、北下馬廐(きたげばうまや)に関係すると推定される柱の跡が見つかりました。石で囲まれた長方形部分は、厩(かわや)の可能性ががあります。



第16地点 (北西から) 現：教育・学生総合支援センター

筋違橋通の推定位置がわかりました。

江戸時代の初めから幕末までおよそ 270 年間にわたる建物跡・井戸・溝など、複数の武家屋敷の施設を発見しました。重複して発見されることから、その間に何度も建て直しや配置替えをしていることがわかります。



第11地点 現：サブアリーナ

第9地点 現：課外活動共用施設 B



この地点は、段丘崖があり、現在でも大きな高低差がみられます。調査では、江戸時代の石垣が発見されました。

第4地点 現：サークル部室棟

調査から推定された屋敷の境



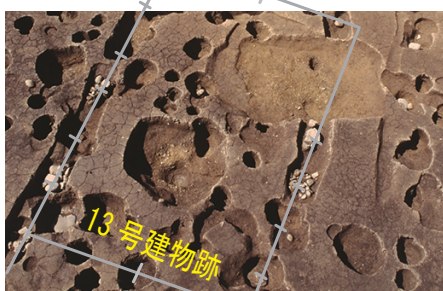
屋敷の境は、溝等で区画されています。サークル棟の大部分は、大松沢越中の屋敷地(幕末頃)の中にあたります。



地鎮遺構

江戸時代初めに地鎮を行った痕跡です。素焼きのかわけの中に、永楽通宝(えいらくつうほう)を11枚入れて埋納しています。

建物跡



千本以上の柱の穴を発見しました。それらの柱跡の大きさや柱間の距離と方向などを分析し、組み合わせる柱を探します。

柱の数の多さは、建替えや改修を繰り返し、この場所が長い間、屋敷地として使われたことを示しています。